YAMAHA



取扱説明書

DragStar

XVS1100A

5YS-28199-J2

JAU27251

ヤマハ車をお買いあげいただきありがとうございます。

この取扱説明書には、お買いあげいただいた車の正しい取り扱い方法や安全な運転のしかた、日常点検、簡単な定期点検整備などについて説明してあります。
車は万一取り扱いを誤ると、重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。
車の正しい取り扱いをご理解いただくため、運転される前に必ず本書をお読みください。
また、メンテナンスノート、セーフティガイド（バイクをより安全にお乗りいただくためのアドバイス）もあわせてお読みください。
本書では、正しい取り扱いおよび点検整備に関する重要な事項を下記のシンボルマークで表示しています。

⚠	**安全にかかわる注意情報を示してあります。**
⚠警　告	**取り扱いを誤った場合、死亡または重傷に至る可能性が想定される場合を示してあります。**
⚠注　意	**取り扱いを誤った場合、傷害に至る可能性または物的損害の発生が想定される場合を示してあります。**
要　点	正しい操作のしかたや点検整備上のポイントを示してあります。

車の受け取りの際には、お買いあげいただいた販売店から「取扱説明書」「メンテナンスノート」「セーフティガイド」「仮保証書」「車両受け渡し確認書」を受け取り、以下の説明を必ずお受けください。

- 車の正しい取り扱い方法
- 日常点検、定期点検整備
- 保証内容および保証期間
- 正式保証書の発行に関する説明

※車をゆずるときには、次の持ち主のために本書もお渡しください。
※仕様の変更などにより、本書の図や内容が一部実車と異なることがありますのでご了承ください。

もくじ

安全運転のために.....1-1
- あなた自身と同乗者のために 1-1
- 歩行者と他の車のために 1-4
- 環境・住民の方との調和のために .. 1-5

各部の名称.....2-1
- 左側面 2-1
- 右側面 2-2
- 運転装置と計器類 2-3

各部の取り扱いと操作.....3-1
- キーの取り扱い 3-1
- イモビライザーシステム 3-1
- メインスイッチ 3-2
- 警告灯と表示灯 3-3
- スピードメーターユニット 3-5
- 盗難警報器（オプション） 3-5
- ハンドルスイッチ 3-5
- フューエルタンクキャップ 3-7
- 燃料 3-9
- フューエルコック 3-9
- チョークレバー“ ”.....3-10
- シート 3-10
- ヘルメットホルダー 3-11
- 書類入れ 3-12
- リヤクッションの調整 3-12
- イグニッションサーキット カットオフシステム 3-14

日常点検.....4-1
- 日常点検の実施 4-1
- 日常点検箇所／点検内容 4-1

運転操作 5-1
- 始動と暖機運転（エンジンが冷えている時） 5-1
- エンジン始動（エンジンが暖まっているとき） ...5-1
- ギヤチェンジのしかた 5-2
- ならし運転 5-2
- 駐車 5-2

点検整備 6-1
- 点検整備の実施 6-1
- サービスツール 6-2
- カバーの取り外し、取り付け 6-2
- エンジンオイル 6-3
- ファイナルギヤオイルの交換時期 ...6-4
- エンジンのかかり具合、異音の点検 6-5
- 低速、加速の状態の点検 6-5
- エアクリーナーエレメントの清掃 ...6-5
- タイヤ 6-6
- クラッチ 6-8
- ブレーキレバーの遊び／ブレーキペダルの遊び、およびブレーキのきき具合の点検 6-9
- ブレーキランプスイッチ 6-10
- ブレーキパッドの点検 6-10
- ブレーキ液量の点検 6-11
- ブレーキ液の補給 6-11
- バックミラー 6-13
- 車体各部の給油脂状態の点検 6-13
- アンダーブラケットの取り付け状態の点検（ステアリングステム） 6-13
- バッテリー 6-14
- ヒューズ交換 6-15
- 灯火装置および方向指示灯の点検 6-17
- 運行において異常が認められた箇所の点検 6-17

お車の手入れ 7-1
- 洗 車 7-1
- 保管のしかた 7-2
- アフターケア用品について 7-2

製品仕様 8-1

ユーザー情報 9-1
- 二輪車を廃棄する場合は？ 9-1
- サービスマニュアル（別売）の紹介 9-2
- 車両情報 9-2

JAU27280

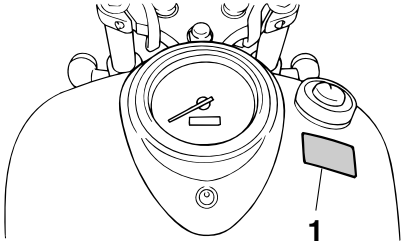
この章には、特に知っておいていただきたいこと、守っていただきたいことなどの基本的なアドバイスを述べてあります。運転するときには、次のことを守って安全運転および上手な操作を心がけてください。
安全運転とは、交通ルールを守ることだけでなく、ほかの人々が安全に通行できるように配慮することです。

JAU27382

あなた自身と同乗者のために

安全項目ラベルについて

運転に慣れてきますと、いろいろな注意を忘れがちになり、事故を起こすことがあります。
車に乗るときには、安全項目ラベルの注意事項をいつも守り、安全運転に心がけてください。



1. 安全項目ラベル

⚠ 警 告

- 取扱説明書をよく読んで安全な運転をしましょう。
- ヘルメットを正しくかぶりましょう。
- マフラーは熱くなります。人が触れにくい場所に駐車する等の配慮をしましょう。
- ヘッドランプを昼間はロービーム点灯しましょう。
- 違法改造はやめましょう。
- 定められた点検整備をメンテナンスノートに従って励行しましょう。

3XC-2118K-10

安全運転は正しい服装から

- ヘルメットは必ず着用してください。ヘルメットは S または SG、JIS マークのある二輪車用を必ず着用してください。ヘルメットは正しくかぶり、必ずあごひもをしめます。頭にしっくり合って、圧迫感のないものが最適です。



- グローブを必ず着用してください。グローブは、摩擦に強い皮製のものが適しています。
- ヘルメットにシールドを着用してください。着用できないときは、ゴーグルを使用してください。
- 運転する服装は保護性の高い服で、明るく目立つ色で動きやすく、体の露出が少ない長袖・長ズボンを着用してください。疲労を少なくし、万一の転倒時には身体を保護します。ズボンのすそや袖口の広い服は運転操作のじゃまになり、思わぬ事故の原因にもなりますので避けてください。
- 靴はかかとが低く、運転操作がしやすいものを着用してください。また、くるぶしまで覆われていて足にピッタリしたものを選んでください。
- 同乗者にも上記の注意を守らせてください。

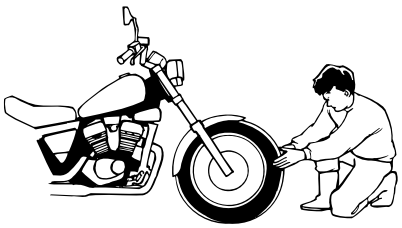
JWA11600

⚠警　告

ヘルメットを正しくかぶっていないと、万一の事故の際、死亡または重傷に至る可能性が高くなります。運転者と同乗者は、必ずヘルメットをかぶり、正しい服装で乗車してください。

日常点検、定期点検整備を必ず行う

事故や故障を防ぐため、法令で定められた１日１回ご使用前に行う日常点検と、法令で定められた６か月、１２か月ごとに行う定期点検は必ず実施してください。



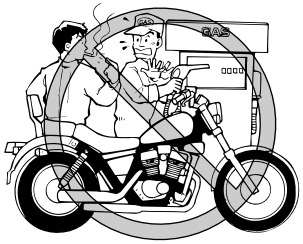
車の異状

次のような場合は、車が故障しているおそれがあります。そのままにしておくと、走行に悪影響をおよぼしたり、事故につながるおそれがあり危険です。販売店で点検・整備を受けてください。

- 異音がしたり、異臭や異常な振動があるとき。
- 地面にオイルなどが漏れた跡があるとき。
- 燃料、冷却水のにじみまたは漏れた跡があるとき。

給油時は火気厳禁

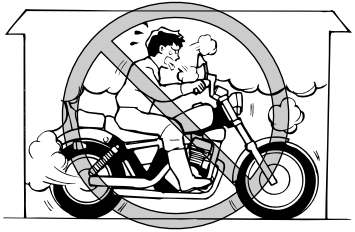
ガソリンは揮発性が高く、引火しやすい燃料です。給油時は必ずエンジンを止め、火気を近づけないでください。



風通しの悪い場所でエンジンを始動しない

排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。

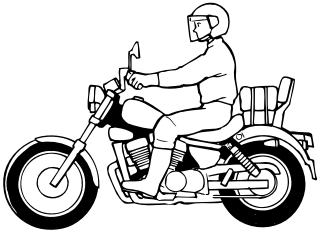
風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。エンジンの始動、暖機運転は風通しのよい屋外で行ってください。



荷物はしっかり固定する

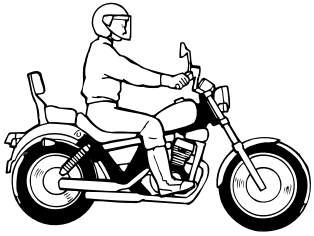
荷物を積むと、積まないときにくらべて操縦安定性が変わります。

荷物はしっかりと固定し、積み過ぎないように注意してください。



両手はハンドル、両足はフットレスト

- 運転するときは、両手でハンドルを握り、両足をフットレストにのせます。
- 同乗者には、両手で体をしっかり固定させ、両足を必ずフットレストにのせさせます。



乗車定員は 2 名

ただし、免許取得後 1 年未満の運転者は、法令により 2 人乗りはできません。

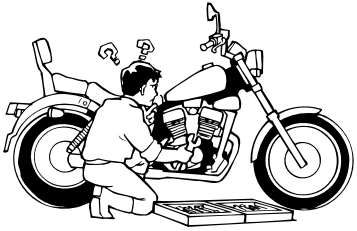
急激なハンドル操作や片手運転はしない

急激なハンドル操作や片手運転は、横すべりや転倒の原因となります。絶対にしないでください。



自己流のエンジン調整、部品の取り外しはしない

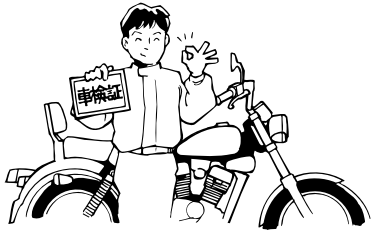
エンジン調整はヤマハ販売店におまかせください。



継続検査（車検）は 2 年ごとに

小型自動車 (251cc 以上）は国で定める 2 年ごとの継続検査を受けなければ使用できません。

期間満了前に必ず受けてください。

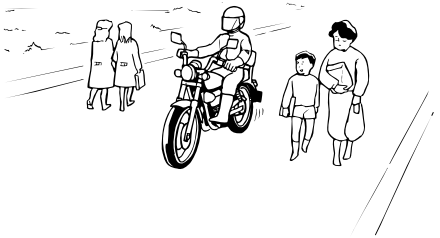


JAU27481

歩行者と他の車のために

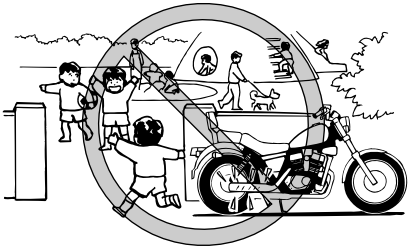
他の人への思いやり

- 交通ルールを守り、まわりの歩行者や車の動きに注意し、相手の立場について思いやりの気持ちをもって通行しましょう。
- 周囲の状況に注意して、安全なスピードで走行してください。歩行者や自転車のそばを通るときは、安全な距離を保つか徐行してください。



駐車

- 盗難予防のため、車から離れるときは必ずハンドルロックをかけ、キーをお持ちください。また、チェーンロックなどのサイクルロックも同時に使用することをおすすめします。
- 交通のじゃまにならない場所に駐車してください。
- 平坦な場所に駐車してください。やむをえず、傾斜地や柔らかい地面などの不安定な場所に駐車するときは、転倒や動き出しのないようにしてください。
- 車から離れる前に、スタンドが確実にセットされているかを確認してください。



JWA11630

⚠警　告

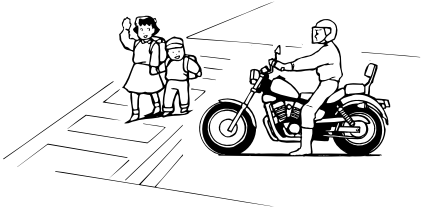
- **エンジン回転中および停止後、しばらくの間はマフラーやエンジンなどが熱くなっています。触れるとヤケドをすることがありますので、注意してください。また、物などが直接触れないようにしてください。**
- **駐車は、通行する人がマフラーやエンジンなどに触れない場所にしてください。**

JAU27590

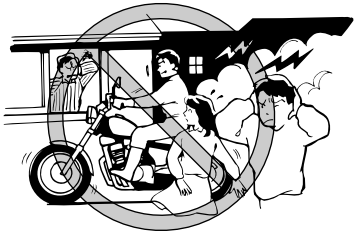
環境・住民の方との調和のために

住民の方への思いやり

自分の都合だけを考えて、沿道の方に不愉快な騒音などの迷惑をかけないでください。



特に深夜の住宅街や人通りの多い道路などで長時間のアイドリングや急発進などを行うと、迷惑になりますのでしないでください。

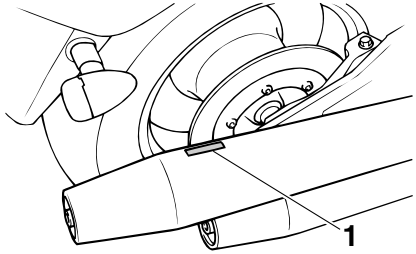


違法改造はしない

違法改造は法律により禁止されています。改造は操縦安定性を悪くしたり、排気音を大きくして車の寿命を縮めたり、重大な事故や故障の原因となります。

また、改造すると車の保証が受けられません。

なお、ヤマハ純正部品のマフラーには“YAMAHA”マークが刻印されています。



1. “YAMAHA”マーク

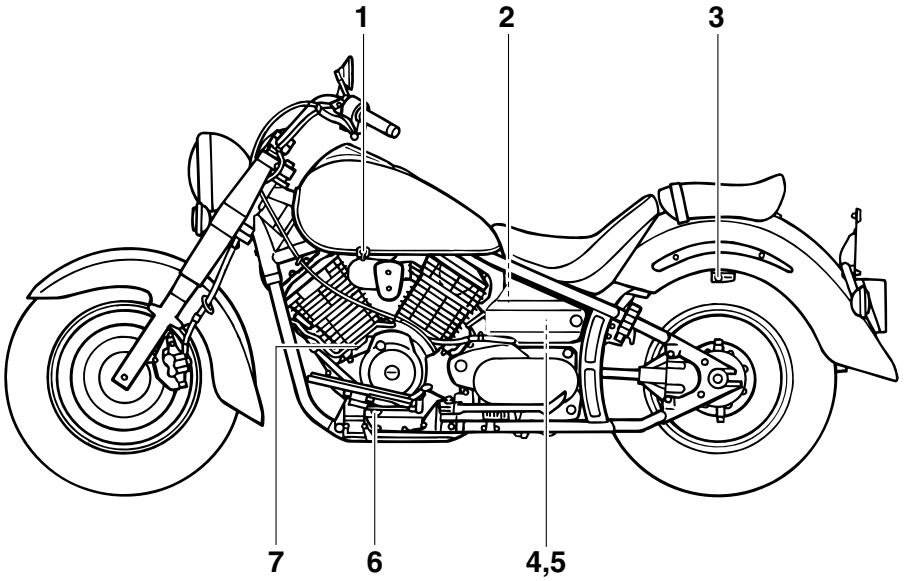
環境への配慮

廃車をするときや、バッテリー、廃油などの廃棄処理をするときは、環境保護のためお買い上げのヤマハ販売店にご相談ください。

各部の名称

JAU10410

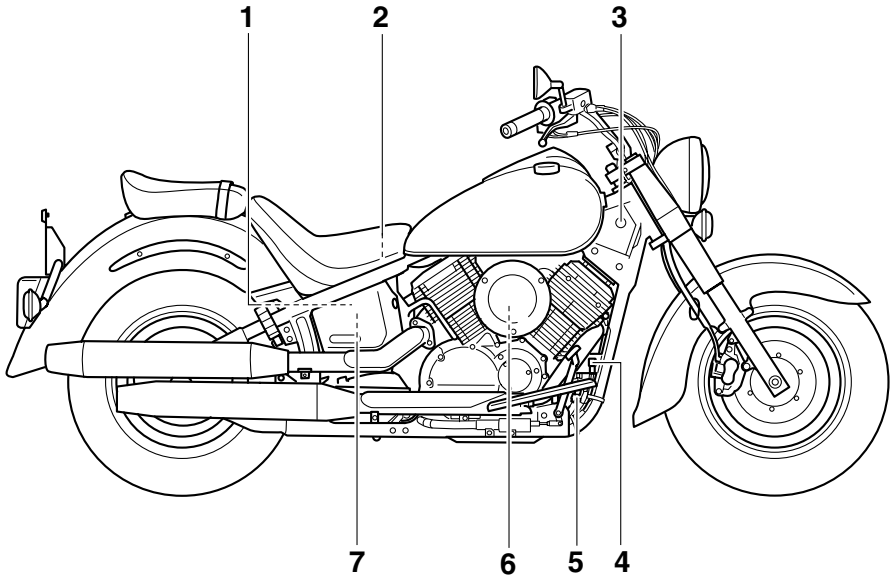
左側面



1. フューエルコック（P3-9）
2. 系統別ヒューズボックス（P6-15）
3. ヘルメットホルダー（P3-11）
4. サービスツール（P6-2）
5. 書類入れ（P3-12）
6. エンジンオイル点検窓（P6-3）
7. オイル注入口（P6-3）

JAU10420

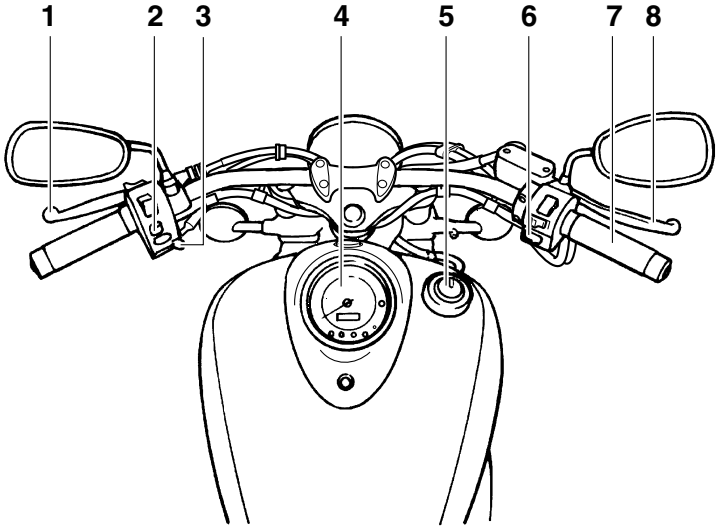
右側面



1. リヤクッション（P3-12）
2. メインヒューズ（P6-15）
3. メインスイッチ / ハンドルロック（P3-2）
4. 後輪ブレーキフルードリザーバータンク（P6-11）
5. ブレーキランプスイッチ（P6-10）
6. エアクリーナーエレメント（P 6-5）
7. バッテリー（P6-14）

JAU10430

運転装置と計器類

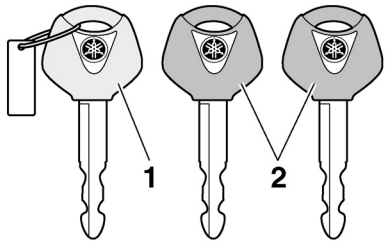


1. クラッチレバー（P6-8）
2. ハンドルスイッチ（左）（P3-5）
3. チョークレバー（P3-10）
4. スピードメーターユニット（P3-5）
5. フューエルタンクキャップ（P3-7）
6. ハンドルスイッチ（右）（P3-5）
7. スロットルグリップ
8. ブレーキレバー（P6-9）

JAU33070

キーの取り扱い

マスコット部が赤いメインキーが 1 本とマスコット部が黒いサブキーが 2 本あります。メインキーはサブキーの ID を登録するときに必要な大切なキーですので、普段は車の操作には使用しないでください。車の操作には、必ずサブキーを使用してください。



1. メインキー（赤）
2. サブキー（黒）

JCA12770

⚠注　意

キーを取り扱うときには、下記の内容を必ず守ってください。

- **メインキーは大切に保管し、紛失しないよう注意してください。メインキーを紛失するとイモビライザーユニットにサブキーのIDを登録することができなくなります。また、3 本のキー全てを紛失した場合は、イモビライザーシステムの構成部品全てを交換しなければなりません。**
- **キーを水に浸けないでください。**
- **キーを高温になる場所に置かないでください。**
- **キーに磁気を帯びたものを近づけないでください。**
- **キーを落として強い衝撃を与えたり、重いものを載せたりしないでください。**
- **キーを削ったり、穴を開けたりして形状を変えないでください。**
- **キーを分解しないでください。**
- **複数のイモビライザーキー（この車のキーも含みます。）を同じキーリングにつけたり、メインスイッチに他のイモビライザーシステムを近づけたりしないでください。ID の認識を妨げ、エンジンの始動ができなくなることがあります。**

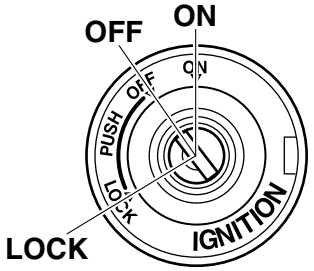
JAU26890

イモビライザーシステム

この車には、盗難抑止のためにイモビライザーシステムを装備しています。イモビライザーシステムとは、メインキーおよびサブキーにトランスポンダ（固有の ID を持った発信機）を内蔵しており、あらかじめ車両本体のイモビライザーユニットに登録された ID のキー以外ではエンジンの始動ができないようにしたシステムです。（詳細は 3-4 ページを参照してください。）

JAU10460

メインスイッチ



メインスイッチはエンジンの始動と停止、ブレーキランプや方向指示灯などの電源の「入 / 切」、ハンドルロックを行います。

JWA11620

⚠警　告

走行中にメインスイッチをOFFやLOCKの位置にすると、電気系統の作動が停止し、事故につながるおそれがあります。メインスイッチは必ず停車中に操作してください。

JCA11970

⚠注　意

- **盗難予防のため、車から離れるときは必ずハンドルロックをかけ、キーをお持ちください。**
- **エンジンをかけないでメインスイッチをONのままにしたり、エンジン始動後アイドリング状態を長時間続けると、バッテリーあがりの原因となります。注意してください。**

JAU35080

ON

全ての電気回路に電源が供給され、テールランプとメーター灯が点灯し、エンジンを始動させることができます。キーを抜き取ることはできません。

要　点

- エンジンが始動すると、ヘッドライトが自動的に点灯します。エンジンが止まってもメインスイッチを OFF にするまで点灯し続けます。
- スタータースイッチを押して、エンジンが始動しないときにもヘッドライトが点灯することがありますが、異常ではありません。
- この車はフューエルポンプを装備しています。メインスイッチを ON にしたとき、またはエンジン始動中にフューエルポンプの作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

JAU10660

OFF

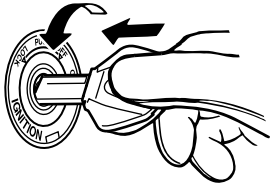
全ての電気回路がオフになり、エンジンが停止します。キーを抜くことができます。

JAU10680

LOCK

ハンドルがロックされます。全ての電気回路がオフになります。キーを抜くことができます。

ハンドルロックのしかた



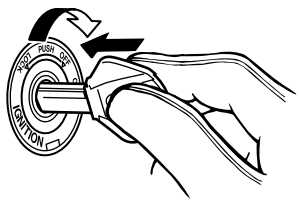
1. ハンドルを左へいっぱいに切ります。
2. OFF の位置でキーを押し込み、そのまま LOCK まで回します。

要　点

ロックしにくいときは、ハンドルを軽く左右に動かしながらキーを回します。

3. キーを抜きます。

ハンドルロックの解除のしかた



LOCK の位置でキーを押しこみ、そのまま OFF まで回します。

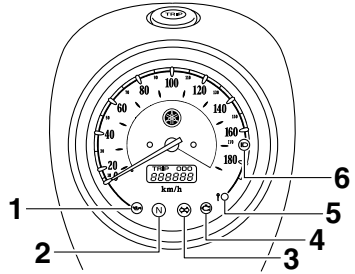
JWA11450

⚠警 告

走行中にメインスイッチを OFF や LOCK の位置にすると、電気系統の作動が停止し、事故につながるおそれがあります。メインスイッチは必ず停止中に操作してください。

JAU11002

警告灯と表示灯



1. エンジンオイル量警告灯“ ”
2. ニュートラルランプ“N”
3. 方向指示器表示灯“ ”
4. エンジン警告灯“ ”
5. イモビライザーシステム表示灯“ ”
6. ヘッドライト上向き表示灯“ ”

JAU11020

方向指示器表示灯“ ”
方向指示器に合わせて点滅します。

JAU11060

ニュートラルランプ“N”
ギヤがニュートラルのとき点灯します。

JAU11080

ヘッドライト上向き表示灯“ ”
ヘッドライトを上向きにすると点灯します。

JAU11120

エンジンオイル量警告灯“ ”
エンジンオイル量が少なくなると点灯します。
警告灯の電気回路は、以下の手順に従って、点検することができます。

1. メインスイッチを ON にします。
2. 警告灯が約 2 秒間点灯し、その後消灯することを点検します。
3. 警告灯が点灯しないときは、ヤマハ販売店で電気回路の点検を受けてください。

要 点

エンジンオイル量が十分であっても、坂道を走行しているときや急な加減速の間は、警告灯が点滅することがありますが、これは異常ではありません。

JCA12950

⚠注 意

- **何度も点滅したり、点灯したままになるときは、エンジンオイル量を点検してください。不足しているときは、早めに補給してください。オイル量が正常なときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。**
- **警告灯が点灯したまま走行すると、故障の原因となります。**

JAU11480

エンジン警告灯“ ”

エンジンをモニターする電気回路が故障した時、警告灯が点灯するか、点滅します。ヤマハ販売店で点検を受けてください。

要　点

キーを ON にしたとき、警告灯が約 2 秒間点灯し、その後消灯します。点灯しないときや消灯しないときは、ヤマハ販売店で点検を受けてください。

JAU27020

イモビライザーシステム表示灯“ ”

この車には、盗難抑止のためにイモビライザーシステムを装備しています。メインスイッチを OFF にすると、イモビライザーシステムが機能し、メインスイッチ OFF 後、約30 秒経過するとイモビライザーシステム表示灯が点滅を始めます。その後、約24 時間経過すると表示灯は消えますが、イモビライザーシステムは機能しています。

要　点

表示灯の球切れや回路点検のため、メインスイッチをONにすると表示灯がいったん点灯し、すぐに消灯します。点灯しないときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

自己診断機能

この車には、イモビライザーシステムの異常を知らせる自己診断機能を装備しています。メインスイッチが ON の状態であれば、エンジンの始動、停止にかかわらず、検出した異常内容のコードをイモビライザーシステム表示灯の点灯または点滅で表示します。

JCA12750

⚠注　意

自己診断機能が働いたときは、ヤマハ販売店にて点検・整備を受けてください。

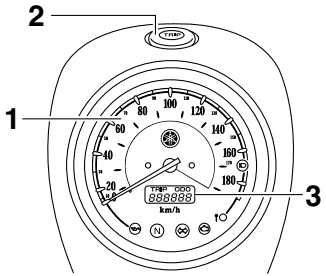
イモビライザーシステム表示灯が長く 5 回点滅した後、短く 2 回点滅するパターンの異常コード表示を繰り返したときは、キーの ID の認識が妨げられた可能性があります。3 本のキー全てで、エンジンが始動できるかを確認してください。エンジンの始動ができないキーがあった場合には、お買い上げのヤマハ販売店にご相談ください。

要　点

他のイモビライザーキーをメインスイッチに近づけたり、複数のイモビライザーキーを同じキーリングにつけたりしないでください。（この車のキーも含みます。）ID の認識を妨げ、エンジンの始動ができないことがあります。

JAU11731

スピードメーターユニット



1. スピードメーター
2. “TRIP”ボタン
3. オドメーター／トリップメーター

スピードメーターユニットには、デジタルオドメーターとトリップメーターが装備されています。スピードメーターは車の速度を示します。オドメーターは走行した総距離を表示します。トリップメーターは前回リセット（ゼロ）にした時点からの走行距離を示します。

“TRIP”ボタンを押して、オドメーター表示（ODO）とトリップメーター表示（TRIP）を切り替えます。

トリップメーターをリセットするには、トリップメーター表示のときに、“TRIP ”ボタンを1秒以上押したままにします。

JAU12331

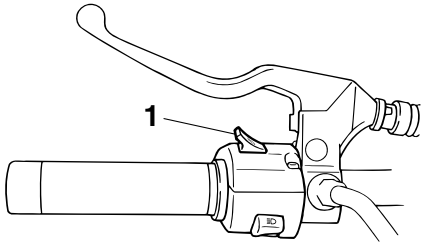
盗難警報器（オプション）

この車には、オプションで盗難警報器を装着することができます。装着については、お買い上げのヤマハ販売店にご相談ください。

JAU12343

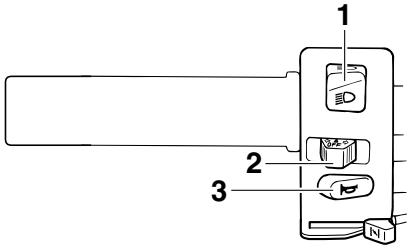
ハンドルスイッチ

左



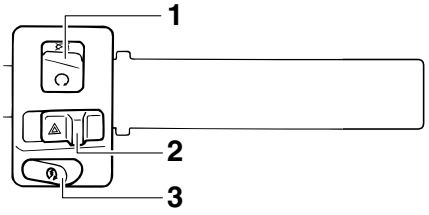
1. パッシングライトスイッチ“≡D”

左



1. ヘッドライト上下切り替えスイッチ“≡D/≡D”
2. 方向指示器スイッチ“⇦/⇨”
3. ホーンスイッチ“”

右



1. エンジンストップスイッチ“ / ”
2. ハザードスイッチ“ ”
3. スタータースイッチ“ ”

JAU12350

パッシングライトスイッチ“ ”

ヘッドライトの上向きを点灯させるスイッチです。先行車の追い越しなどで、他車に合図をするときに使用します。

要　点

ヘッドライト上下切り替えスイッチが“ ”のときは、使用できません。

JAU12400

ヘッドライト上下切り替えスイッチ“ / ”

ヘッドライトの配光を上向き、下向きに切り替えるスイッチです。

（上向き）：遠くを照らします。
（下向き）：近くを照らします。

要　点

先行車や対向車があるときは、ヘッドライトを下向き“ ”にしてください。

JAU12460

方向指示器スイッチ“ ”

進路変更の合図に使用します。
操作は、進路変更する側にスイッチをスライドさせます。
消灯するときは、スイッチを押します。
：右側の方向指示灯が点滅します。
：左側の方向指示灯が点滅します。

JWA11640

警　告

方向指示灯は自動的に消灯しません。使用後は、必ず消灯してください。点滅したままにしておくと、他のかたの迷惑になります。

JCA11980

注　意

電球を交換するときは、正規のワット数のものを使用してください。これ以外のものを使用すると、正常に作動しません。

JAU12500

ホーンスイッチ“ ”

スイッチを押すとホーンが鳴ります。

要　点

必要なときにのみ使用してください。

JAU28181

エンジンストップスイッチ“ / ”

非常時に、エンジンをすぐに停止させるスイッチです。通常は にしておきます。

JWA12100

警　告

非常時にエンジンストップスイッチでエンジンを停止させたときは、マフラーやエンジンなどが熱くなっています。ヤケドに注意してください。

JCA12350

注　意

- **非常時にエンジンストップスイッチでエンジンを停止させたときは、必ずメインスイッチを OFF にしてください。ON のままですと、バッテリーあがりの原因となります。**
- **走行中に、エンジンストップスイッチを → → にしないでください。エンジンの回転が不円滑となり、エンジン不調の原因となります。また、排出ガス浄化装置**

の故障の原因となります。

要　点

⊗にすると、エンジンは始動できません。

JAU12710

スタータースイッチ“⊛”

このスイッチを押すと、スターターモーターが回転し、エンジンが始動します。

JCA11881

⚠注　意

- スターターモーターを連続して回転させないでください。消費電力が多いためバッテリーあがりの原因となります。
- エンジンを始動させる前に、5-1 ページの始動手順を参照してください。

JAU12763

ハザードスイッチ“⚠”

メインスイッチを ON にした状態で、スイッチを“⚠”にスライドし、ハザードランプを点灯させます（全ての方向指示器が点滅します）。

ハザードランプは、故障などの非常時に他車に知らせるために使用します。

JCA11890

⚠注　意

バッテリーあがりを防ぐため、ハザードランプを長時間使用しないでください。

JAU33641

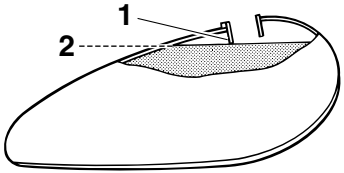
フューエルタンクキャップ

JWA12170

⚠警　告

給油時およびガソリンを取り扱う場合は、次のことを必ず守ってください。

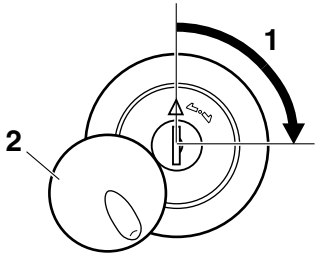
- 給油時は必ずエンジンを止め、火気を近づけないでください。ガソリンは揮発性が高く、引火しやすい燃料です。
- フューエルタンクキャップを開ける前に、車体などの金属部分に触れて静電気の除去を行ってください。身体に静電気を帯びた状態で給油すると、放電による火花で引火する場合があり、ヤケドするおそれがあります。
- 給油操作は、必ず一人で行ってください。複数で行うと静電気が除去できない場合があります。
- 給油は、必ず屋外で行ってください。
- 給油限度を超えてガソリンを入れないでください。走行中にガソリンがにじみ出ることがあり危険です。
- 給油後、フューエルタンクキャップを確実に閉めてください。



1. フィラーチューブ
2. 給油限度

フューエルタンクキャップの取り外しかた

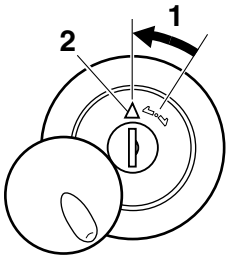
キーカバーをスライドさせて開けます。キーをロックに挿し込み、時計方向に 1/4 回してロックを解除し、フューエルタンクキャップを取り外します。



1. 解除
2. キーカバー

フューエルタンクキャップの取り付けかた

1. “△”マークを前方に向けてください。フューエルタンクキャップを注入口に差し込み、キャップを取り付けます。
2. キーを反時計方向に回してロックをしてから、キーを抜き取りキーカバーを閉めます。



1. ロック
2. “△”マーク

要　点

キーを抜き取ると、フューエルタンクキャップを閉めることはできません。また、フューエルタンクキャップを正しく閉めないと、キーを抜くことはできません。

JAU31460

燃料

JAU28280

指定燃料

指定燃料：
　無鉛レギュラーガソリン
タンク容量：
　約 17.0 L
予備容量：
　約 4.5 L

JCA12510

⚠注　意

- **必ず指定燃料を使用してください。指定以外の燃料を使用するとエンジンの始動性が悪くなったり、出力低下などのエンジン不調の原因となる場合があります。また、エンジンや燃料系の部品を損傷するおそれがあります。**
- **こぼれたガソリンは、布切れなどできれいにふき取ってください。**
- **タンクにゴミやチリなどの不純物が入らないように注意してください。**

JAU34850

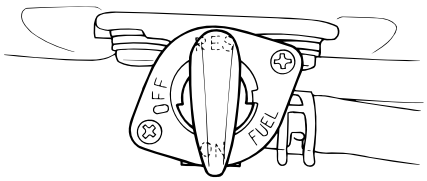
フューエルコック

この車はフューエルポンプを使用しています。エンジンが停止すると自動的にガソリンの流れが止まります。

要　点

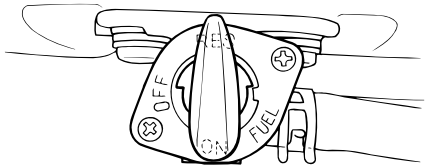
メインスイッチを ON にしたとき、またはエンジン始動中にフューエルポンプの作動音が聞こえるときがありますが異常ではありません。

ON



始動および走行時のレバー位置です。

RES

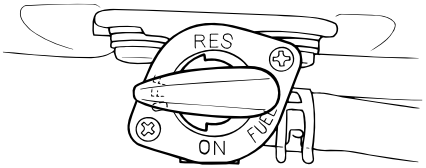


予備燃料（予備容量約 4.5 L ）のレバー位置です。
ON で走行中にガソリンがなくなったら、レバーをこの位置にします。予備燃料が使用できますが早めに給油してください。給油を終えたらレバーを ON に戻してください。

要　点

RESでガソリンがなくなり給油したときは、メインスイッチを ON にし、エンジンストップスイッチの ⏜ → ⊗ → ⏜ を 5 秒以上の間隔で数回繰り返します。キャブレターに早くガソリンが流れ、給油後の始動が容易になります。

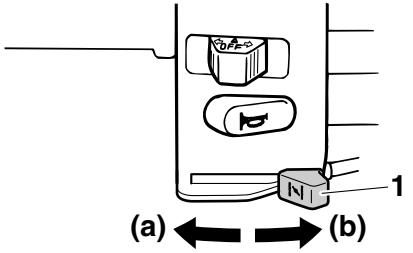
OFF



エンジンの点検などでフューエルパイプをフューエルタンクから外すときのレバー位置です。

JAU13610

チョークレバー “ ”



1. チョークレバー “ ”

エンジンが冷えているときは、チョークを使用すると始動が容易になります。
レバーを (a) 方向に移動させ、チョークをオンにします。
レバーを (b) 方向に移動させ、チョークをオフにします。

JCA12560

⚠注 意

エキゾーストパイプが過熱により変色することがありますので、チョークを 3 分以上連続して使用しないでください。

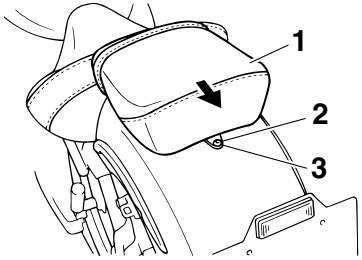
JAU37940

シート

タンデムシート

タンデムシートの取り外しかた

ナットとワッシャーを外し、タンデムシートを取り外します。

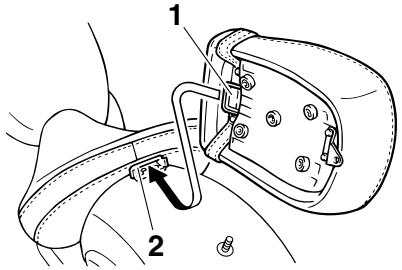


1. タンデムシート
2. ナット
3. ワッシャー

タンデムシートの取り付けかた

タンデムシート前部の突起を図のようにホルダーに差し込み、シート後端の取り付け部にワッシャーとナットを取り付けます。その後、ナットを締め付けます。

締め付けトルク
タンデムシートナット：
21 Nm （2.1 kgf · m）

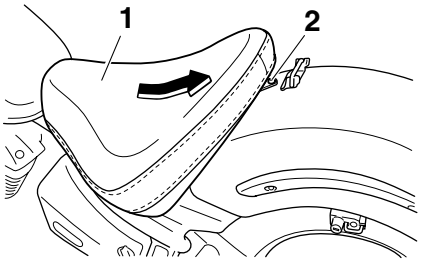


1. 突起
2. ホルダー

ライダーズシート

ライダーズシートの取り外しかた

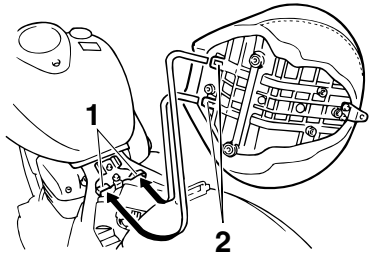
1. タンデムシートを取り外します。
2. ボルトを外し、ライダーズシートを取り外します。



1. ライダーズシート
2. ボルト

ライダーズシートの取り付けかた

1. ライダーズシート前部の突起を図のようにホルダーに差し込み、シートを取り付けます。その後、ボルトを締め付けます。



1. ホルダー
2. 突起

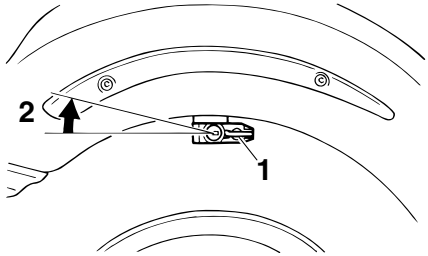
2. タンデムシートを取り付けます。

要　点

走行前に、必ず、シートが確実に取り付けられているか確認してください。

JAU14281

ヘルメットホルダー



1. ヘルメットホルダー
2. 解除

キーでロックを解除し、ヘルメットのあごひもの金具部分を掛けてロックします。

JWA11650

⚠警　告

ヘルメットをヘルメットホルダーに掛けたまま走行しないでください。ヘルメットが運転を妨げ、思わぬ事故の原因になったり、車の部品に損傷を与えたり、またヘルメットにも損傷を与え保護機能を低下させます。

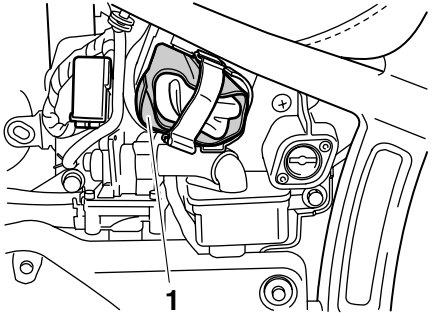
要　点

ヘルメットホルダーは、常にロックしておいてください。

JAU33150

書類入れ

車検証、保険証、メンテナンスノートはビニール袋に入れ、書類入れ（収納用ポーチ）に保管します。サービスツールの外側に巻いてゴムバンドで固定してください。



1. 書類入れ

JAU34860

リヤクッションの調整

リヤクッションはスプリングプリロードアジャスターが装備されています。

JCA11910

⚠注　意

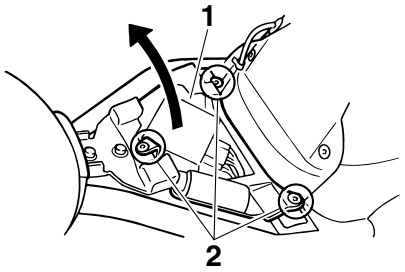
調整範囲を超えて、アジャスターを回さないでください。

スプリングプリロードの調整は以下のようにおこないます

1. タンデムシートとライダーズシートを外します。（3-10 ページ参照）
2. クイックファスナーを取り外し、イグナイターパネルを右側に外します。

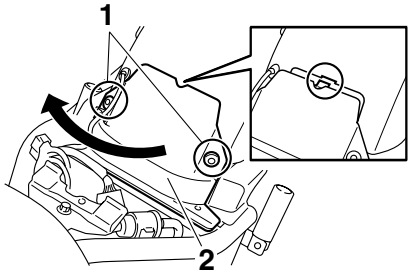
要　点

クイックファスナーはセンターピンを押し込んで取り外します。



1. イグナイターパネル
2. クイックファスナー

3. クイックファスナーを取り外し、マッドガードを右側に外します。



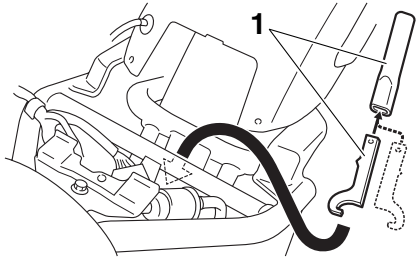
1. クイックファスナー
2. マッドガード

4. スプリングプリロードを高くし、サスペンションをハードにするには、アジャス

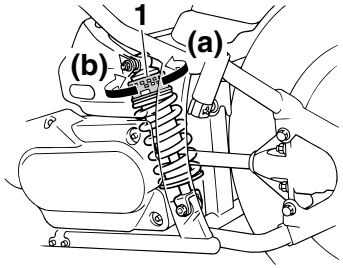
ターを (a) 方向に回します。スプリングプリロードを低くし、サスペンションをソフトにするには、アジャスターを (b) 方向に回します。

要　点

サービスツール内の調整レンチを使って調整を行います。



1. 調整レンチ



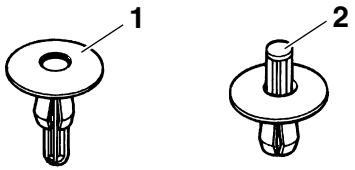
1. アジャスター

スプリングプリロード：
最大（ハード）：
９段
標準：
４段
最小（ソフト）：
１段

5. マッドガードを元の位置に戻し、クイックファスナーを取り付けます。

要　点

クイックファスナーはセンターピンをクイックファスナーの面から押し出した状態で取り付け、その後センターピンをクイックファスナーの面と同じ位置まで押し込みます。



1. クイックファスナー（取り外した状態）
2. クイックファスナー（取り付け前）

6. イグナイターパネルを元の位置に戻し、クイックファスナーを取り付けます。
7. ライダーズシートとタンデムシートを取り付けます。

JWA11510

⚠警　告

リヤクッションユニットは高圧の窒素ガスを含んでいますので下記のことを厳守してください。

- **分解しない。**
- **火気の中に投げ込まない。**
- **廃棄するには、ガス抜きが必要です。必ずお買い上げのヤマハ販売店にご相談ください。**

JAU15311

イグニッションサーキットカットオフシステム

イグニッションサーキットカットオフシステム（サイドスタンドスイッチ、クラッチスイッチおよびニュートラルスイッチを含む）には次の機能があります。

- ギヤがニュートラル以外で、サイドスタンドが上げてあるが、クラッチレバーを握っていないとき、エンジンは始動できません。
- ギヤがニュートラル以外で、クラッチレバーを握っているが、サイドスタンドが下がっているとき、エンジンは始動できません。
- ギヤがニュートラル以外で、サイドスタンドを下げるとエンジンが停止します。

イグニッションサーキットカットオフシステムの作動を、以下の手順に従って定期的に点検してください。

JWA11540

⚠警　告

点検の結果異常があった場合は、走行前にヤマハ販売店でシステムの点検を受けてください。

エンジンを停止したときに：
1.サイドスタンドを下ろします。
2.エンジンストップスイッチをオンにします。
3.メインスイッチをONにします。
4.ギヤをニュートラルに入れます。
5.スタータースイッチを押します。
エンジンは始動しましたか？

はい　　**いいえ** → ニュートラルスイッチの故障が考えられます。
すぐにヤマハ販売店にて点検を受けてください。

エンジンが始動した状態のまま：
6.サイドスタンドを上げます。
7.クラッチレバーを握ります。
8.ギヤを入れます。
9.サイドスタンドを下ろします。
エンジンは停止しましたか？

はい　　**いいえ** → サイドスタンドスイッチの故障が考えられます。
すぐにヤマハ販売店にて点検を受けてください。

エンジンが停止した後：
10.サイドスタンドを上げます。
11.クラッチレバーを握ります。
12.スタータースイッチを押します。
エンジンは始動しましたか？

はい　　**いいえ** → クラッチスイッチの故障が考えられます。
すぐにヤマハ販売店にて点検を受けてください。

イグニッションサーキットカットオフシステムは正常です。**走行可能です。**

要　点

この点検は、エンジンを充分暖気してから行ってください。

JAU15591

日常点検の実施

車を安全で快適に使用いただくため、道路運送車両法で、1日1回の日常点検を行うことが義務づけられています。
必ず実施してください。

JWA12030

⚠警　告

- **日常点検を怠ると重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。必ず実施してください。**
- **異常が認められたときは、ご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。**

要　点

点検整備に使用する工具は、必要に応じてお買い求めください。（モデルにより、車載工具の有無や内容が異なります。）

JAU30061

日常点検箇所／点検内容

詳しい点検の方法は、6-1 ページ以降の点検整備の方法および別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

点検箇所	点検内容
ブレーキ	● ブレーキペダルの踏みしろおよびレバーの握りしろが適切で、ブレーキのききが充分であること。 ● ブレーキ液の量が適当であること。
タイヤ	● タイヤの空気圧が適当であること。 ● 亀裂、損傷がないこと。 ● 異常な摩耗がないこと。 ● 溝の深さが充分あること。（※）
エンジン	● エンジンオイルの量が適当であること。（※） ● かかり具合が良好で、かつ、異音がないこと。（※） ● 低速、加速の状態が適当であること。（※）
灯火装置および方向指示灯	● 点灯または点滅具合が良好で、かつ、汚れや損傷がないこと。
運行において異常が認められた箇所	● 当該箇所に異常がないこと。

（注）

※印の点検は車の走行距離、運行時の状態などから判断した適切な時期（長距離走行時や洗車、給油後など）に実施をしてください。

JWA11731

⚠警　告

安全のため、ご自身の知識、技量にあわせた範囲内で点検・整備を行ってください。難しいと思われる内容はヤマハ販売店にご依頼ください。点検整備するときは安全に充分注意し、下記の内容を守ってください。

- **点検は平坦で足場のしっかりした場所を選び、スタンドを立てて行ってください。**
- **エンジン停止直後は、エンジン本体やマフラー、エキゾーストパイプなどが熱くなっています。直接触れたりしないでください。ヤケドに注意してください。**
- **排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。**
- **走行して点検するときは、交通状況に注意してください。**
- **異常が認められたときは、ご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。**

JAU15990

始動と暖機運転（エンジンが冷えている時）

JWA11560

⚠警　告

- **エンジンを始動する前に、3-14 ページに記述された手順で、イグニッションサーキットカットオフシステムの機能を点検します。**
- **サイドスタンドをおろした状態で走行しないでください。**

1. フューエルコックを ON にします。
2. メインスイッチを ON にし、エンジンストップスイッチが ◯ にセットされていることを確認します。
3. ギヤをニュートラルにします。

要　点

ギヤをニュートラルにしたとき、ニュートラルランプが点灯しない場合、ヤマハ販売店で電気回路の点検を受けてください。

4. チョークをオンにし、スロットルを完全に閉めます。（3-10 ページ参照）
5. スタータースイッチを押して、エンジンを始動します。

要　点

スタータースイッチで 5 秒以内にエンジンが始動しないときは、バッテリー電圧を回復させるため、10 秒位休ませてからスタータースイッチを押してください。

6. エンジンが始動したら、20 ～ 30 秒後にチョークを途中まで戻します。

JCA12590

⚠注　意

エンジンを長持ちさせるため、発進の前には常にエンジンを暖機してください。エンジンが冷えている間の無用な空ふかしは避けてください。

7. エンジンが充分暖まり、エンジンの回転が安定したら、チョークをオフにします。

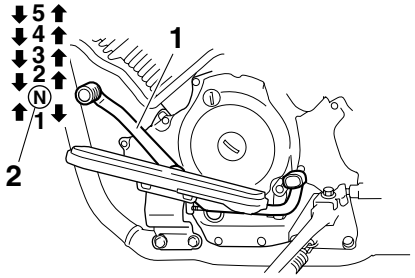
JAU16640

エンジン始動（エンジンが暖まっているとき）

エンジンが暖まっているときは、チョークを必要としないことを除いて、エンジンが冷えている時のエンジン始動と同じ手順で行います。

JAU27511

ギヤチェンジのしかた



1. シフトペダル
2. ニュートラル

この車はリターン式の５段変速です。
ギヤチェンジは、スロットルグリップを一度戻してからクラッチレバーを握り、シフトペダルで操作します。

JCA12030

⚠注　意

- **シフトペダルは、足ごたえがあるまで確実に操作してください。**
- **クラッチレバーを確実に握らずにギヤチェンジしたり、無理なギヤチェンジは、チェンジ機構の故障の原因になります。**

JAU31470

ならし運転

JAU27620

ならし運転のしかた

初回１か月目（または 1000km 走行まで）の点検までは、ならし運転をしてください。
また、不要なからふかしや急加速、急減速はしないでください。
ならし運転を行うと車の寿命を延ばします。

JAU17200

駐車

駐車するときは、エンジンを止め、キーをメインスイッチから抜きます。

JWA11580

⚠警　告

- **エンジンやマフラーは高温になります。通行する人などが触れない場所に駐車してください。**
- **傾斜地や地面が柔らかいところには駐車しないでください。車が転倒することがあります。**

JAU29832

点検整備の実施

日常点検

4-1 ページ「日常点検箇所／点検内容」の表にしたがって、1日1回実施してください。点検の方法については、本書の以降のページや、別冊「メンテナンスノート」の点検整備のしかた以降のページを参照してください。

定期点検整備

定期点検整備は車を使用する人が自己管理責任で定期的に行う点検整備で、法または法に準じて行うことが義務づけられています。二輪自動車または原動機付自転車については、6か月点検と12か月点検の2種類があります。

定期点検項目と基本的な点検内容は別冊の「メンテナンスノート」に記載してあります。ここでは、この車独自の内容を補足説明しています。実際の点検作業にあたっては、別冊「メンテナンスノート」とあわせてご使用ください。

JWA12051

⚠警　告

- **点検整備を怠ると重大な事故、ケガ、トラブルの原因となります。必ず実施してください。**
- **安全のため、ご自身の知識、技量にあわせた範囲内で点検・整備を行ってください。難しいと思われる内容はヤマハ販売店にご依頼ください。**

点検するときは安全に充分注意し、以下の内容を守ってください。

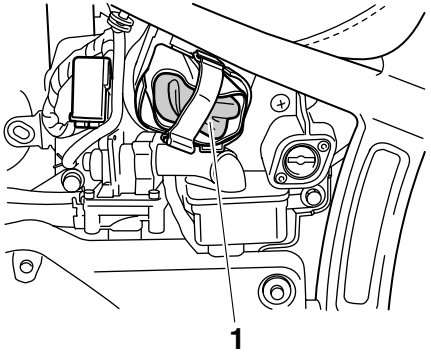
- **点検は平坦で足場のしっかりした場所を選び、スタンドを立てて行ってください。**
- **エンジン停止直後の点検は、エンジン本体やマフラー、エキゾーストパイプなどが熱くなっています。ヤケドに注意してください。**
- **排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。エンジンの始動、暖機運転は風通しのよい屋外で行ってください。**
- **走行して点検するときは、周囲の交通事情に充分注意してください。**
- **異常が認められたときは、ご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。**

要　点

- 点検整備に使用する工具は、必要に応じてお買い求めください。（モデルにより、車載工具の有無や内容が異なります。）
- 点検結果は、別冊「メンテナンスノート」の定期点検整備記録簿に記入してください。ご自身でできない項目については、ヤマハ販売店で点検を受け、記録してください。
- 点検の記録は廃車されるまで保存してください。
- メーカー指定項目の点検結果は、定期点検整備記録簿の「その他」の欄に記録してください。

JAU17340

サービスツール



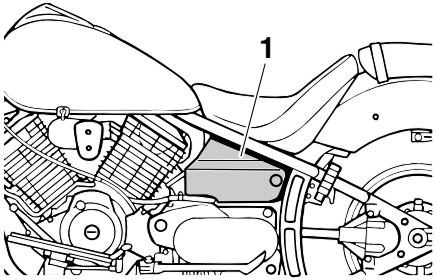
1. サービスツール

サービスツールはカバー A の後ろ側にあります。(カバーの取り外しは 6-2 ページ参照)

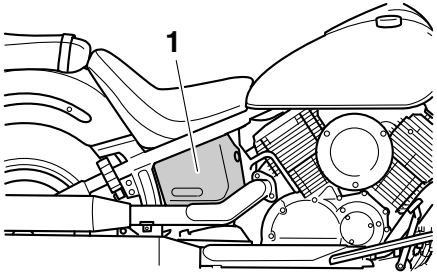
JAU18751

カバーの取り外し、取り付け

図のカバーは、点検整備などで取り外す必要があります。カバーを取り外すときや、取り付けるときは、この項目を参照してください。



1. カバー A



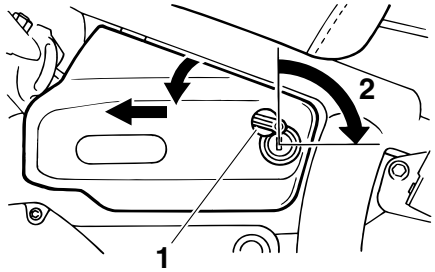
1. カバー B

JAU34870

カバー A

カバーの取り外しかた

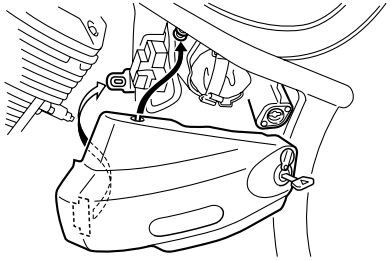
1. ロックカバーを開けて、キーを差し込み、時計方向に1/4回転回してロックを解除します。
2. カバーの上側を手前に引き、前方にずらして外します。



1. ロックカバー
2. 解除

カバーの取り付けかた

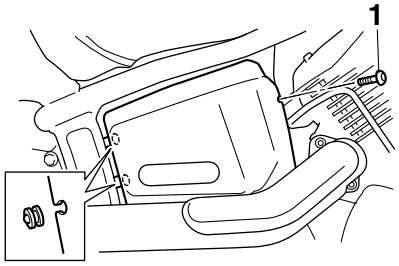
取り付けは、取り外しと逆の手順で行います。



カバー B

カバーの取り外しかた

1. ボルトを取り外します。
2. カバーを手前に引いて外します。



1. ボルト

カバーの取り付けかた

取り付けは、取り外しと逆の手順で行います。

JAU30370

エンジンオイル

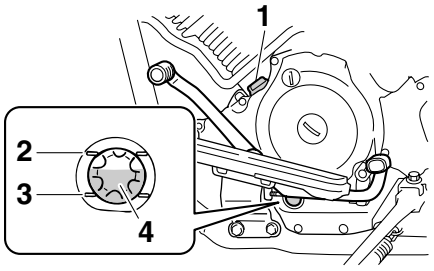
エンジンオイル量の点検

1. 平坦な場所でエンジンを2～3分間アイドリング運転します。

要　点

走行直後でエンジンを充分に暖機してあれば、アイドリング運転は不要です。

2. エンジンを止めて車を垂直にし、2 ～ 3分後、オイル点検窓でエンジンオイル量を点検します。



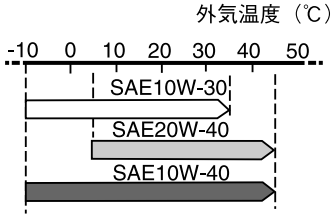
1. オイル注入口
2. フルレベル
3. ロアレベル
4. エンジンオイル点検窓

3. オイル量がロアレベル以下のときは、オイル注入口から補給します。

＜推奨エンジンオイル＞

	SAE	JASO
ヤマハ純正オイル エフェロプレミアム	10W–40	MA
ヤマハ純正オイル エフェロスポーツ	10W–40	MA
ヤマハ純正オイル エフェロベーシック	20W–40 または 10W–30	MA

エンジンオイルの粘度は、外気温によって表を参考にして使いわけてください。



JAU30540

エンジンオイルの交換時期

初回：
1か月点検時または1000km時
2回目以降：
3000km走行毎または1年毎

オイルフィルターの交換時期

初回：
1か月点検時または1000km時
2回目以降：
9000km走行毎

JWA11860

⚠警 告

- **走行後やエンジン暖機運転後、しばらくの間はマフラーやエンジンなどが熱くなっています。ヤケドに注意してください。**
- **油脂類の廃液は、法令（公害防止条例）で適切な処理を行うことが義務づけられています。ヤマハ販売店にご相談ください。**

JCA12100

⚠注 意

- **化学添加剤は一切加えないでください。またヤマハ純正オイルエフェロFXをこの車に使用しないでください。エンジンオイルはクラッチも潤滑しています。添加剤によりクラッチがすべる原因になります。**
- **補給時に、オイル注入口からゴミなどが入らないように注意してください。**
- **オイルをこぼしたときは、布などでよくふきとってください。**

JAU30671

ファイナルギヤオイルの交換時期

初回：
1か月点検時または1000km走行時
2回目以降：
10000km走行毎
定期交換時オイル量：
0.19L
推奨オイル：
ヤマハドライブシャフトオイル

JAU30690

エンジンのかかり具合、異音の点検

エンジンがすみやかに始動し、スムーズに回転するかを点検します。
エンジンから異音がしないかを点検します。

JAU30700

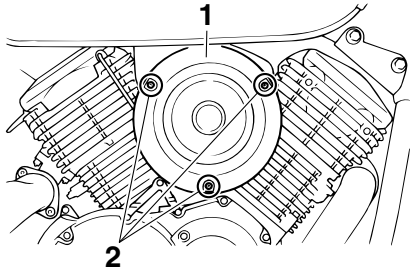
低速、加速の状態の点検

暖機運転後に、アイドリングがスムーズに続くかを点検します。
スロットルグリップを徐々に回してエンジンを加速したとき、スロットルグリップもエンジンもスムーズに回るかを走行などして点検します。このとき、エンジンストップ（エンスト）やノッキングなどが起きたら、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JAU34880

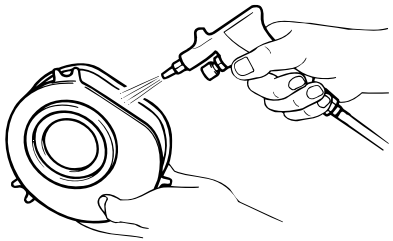
エアクリーナーエレメントの清掃

1. ボルトを外し、エアクリーナーケースカバーを取り外します。

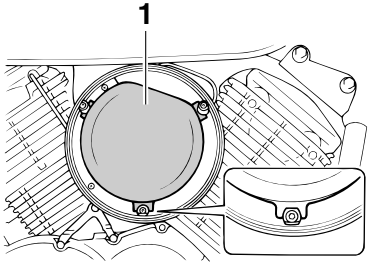


1. エアクリーナーケースカバー
2. ボルト

2. エアクリーナーエレメントを取り出します。
3. エアクリーナーエレメントを軽くたたき、ゴミ、ほこりを落とし、エアを図のように吹き付けて清掃します。もしエアクリーナーに損傷がある場合、交換します。



4. エアクリーナーエレメントをエアクリーナーケースに図のように取り付けます。



1. エアクリーナーエレメント

JCA11940

⚠注 意

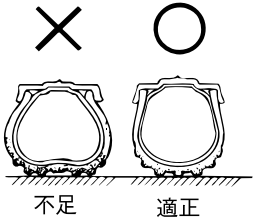
- **破れなどのあるものは交換してください。**
- **エアクリーナーエレメントに水や油などをつけないでください。水や油などが付着して汚れているものは交換してください。**
- **エアクリーナーエレメントの取り付けが悪いと、ゴミやほこりがエンジン内部に入り、摩耗や出力低下を起こして耐久性に影響を与えます。確実に取り付けてください。**
- **洗車時にエアクリーナーケースに水を入れないでください。内部に水が入ると、始動不良などの原因になります。**
- **著しくほこりなどの多い場所を走行したときは、定期点検期間より早めに点検、清掃を行ってください。**

5. エアクリーナーケースカバーを取り付け、ボルトを締め付けます。

JAU31004

タイヤ

空気圧



タイヤ接地部のたわみ状態により空気圧が不足していないかを点検します。たわみ状態が異常なときは、タイヤゲージで点検し、正規の空気圧にしてください。
空気圧はタイヤの冷えているときに測定してください。

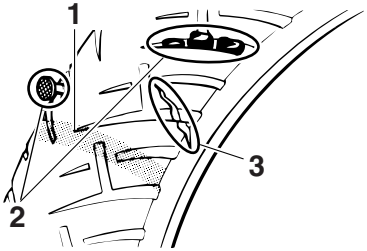
タイヤ空気圧 （冷間時）：
1名乗車：
前輪：
225 kPa (2.25 kgf/cm²)
後輪：
225 kPa (2.25 kgf/cm²)
2名乗車：
前輪：
225 kPa (2.25 kgf/cm²)
後輪：
250 kPa (2.50 kgf/cm²)
高速走行（1名乗車）：
前輪：
225 kPa (2.25 kgf/cm²)
後輪：
250 kPa (2.50 kgf/cm²)
高速走行（2名乗車）：
前輪：
225 kPa (2.25 kgf/cm²)
後輪：
250 kPa (2.50 kgf/cm²)

要　点

- タイヤの空気圧は徐々に低下します。見た目には不足していることが判りにくいタイヤもあり、少なくとも1か月に一度はタイヤゲージを使用して空気圧の点検を行ってください。
- 空気圧の確認は、タイヤが冷えているときに行ってください。走行後はタイヤが暖まっており、空気圧が高くなります。

JAU28581

タイヤの亀裂、損傷の点検
タイヤの接地面や側面に著しい亀裂や損傷がないか、また、釘、石、その他の異物が刺さっていないかを点検します。



1. ウェアインジケーター（摩耗限度表示）
2. 異物（釘、石など）
3. 亀裂、損傷

要　点

道路の縁石などにタイヤ側面を接触させたり、大きなくぼみや突起物を乗り越したときは、必ず点検してください。

JAU28700

タイヤの異常な摩耗
タイヤの接地面が異常に摩耗していないかを点検します。

JAU28772

タイヤの溝の深さ
タイヤの溝の深さをウェアインジケーターで点検します。ウェアインジケーターがあらわれたら、タイヤを交換してください。

要　点

- ウェアインジケーターはタイヤの溝が0．8 mmになるとあらわれます。
- 安定したコーナリングや操縦性などを確保して安全な走行を行うため、タイヤの溝には充分注意してください。一般的に二輪車のタイヤは溝の深さが前輪1．6 mm、後輪2．0 mm以下になりましたら交換をおすすめします。

JWA11911

⚠警　告

- **異なった種類のタイヤや指定サイズ以外のタイヤを使用することは、車の安全走行に悪影響がありますので使用しないでください。**
- **過度にすり減ったタイヤの使用や不適正**

な空気圧での運転は、転倒事故などを起こす原因となることがあります。取扱説明書に記載された空気圧を守り、過度にすり減ったタイヤは交換してください。
- タイヤに異常があると、操縦安定性に影響をおよぼしたりパンクの原因になります。異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

タイヤサイズ：
前輪：
130/90-16M/C 67S
後輪：
170/80-15M/C 77S
指定タイヤ：
前輪：
DUNLOP/D404F
後輪：
DUNLOP/D404G

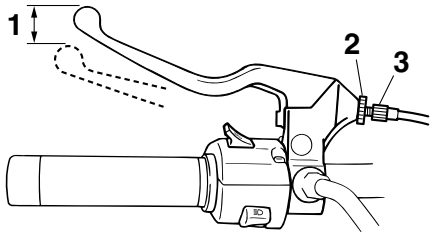
JAU28940

クラッチ

クラッチレバーの遊び

クラッチレバーを手で抵抗を感じるまで引き、レバー先端部の遊びの量が規定の範囲にあるかをスケールなどで点検します。

クラッチレバーの遊び
5.0–10.0 mm



1. 遊び
2. ロックナット
3. アジャスター

点検の結果調整が必要な場合は、ロックナットをゆるめてアジャスターで調整します。

JWA11840

⚠警　告

調整後、エンジンをかけてギヤチェンジがスムーズにできるか、エンストなどしないかを確認してください。なお、車の飛び出しに注意してください。

JCA12090

⚠注　意

- 調整後は、ロックナットを確実に締め付けます。
- 1か月に一度はクラッチケーブルの取り付け部に注油をしてください。ケーブルの寿命が伸びます。

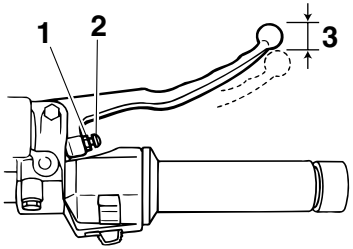
JAU31111

ブレーキレバーの遊び／ブレーキペダルの遊び、およびブレーキのきき具合の点検

ブレーキの遊びの点検

＜前輪ブレーキ＞

ブレーキレバーを軽く握り、抵抗を感じるまでのレバー先端部の遊びが 5.0–8.0 mm の範囲にあるかを点検します。



1. ロックナット
2. アジャスター
3. 遊び

点検の結果調整が必要な場合は、ロックナットをゆるめてアジャスターで調整します。

JCA12070

⚠注　意

調整後、ロックナットを確実に締め付けます。

JWA11850

⚠警　告

ブレーキ調整後は、必ずブレーキランプの点灯とタイミング、ブレーキの引きずりがないかを確認してください。

＜後輪ブレーキ＞

ブレーキペダルは無調整式です。ブレーキペダルを手で押し、手ごたえがあるかどうかを確認します。

JWA11740

⚠警　告

ブレーキレバーの引き具合、ブレーキペダルの踏み具合がやわらかく感じられるときは、エアが混入しているおそれがあります。ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

ブレーキのきき具合の点検

乾いた路面を走行し、前輪ブレーキ、後輪ブレーキを別々に作動させたときのきき具合を点検します。

ブレーキのきき具合が悪いときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JWA11760

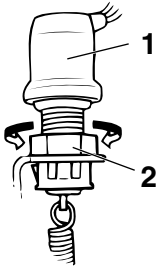
⚠警　告

走行して点検するときは、交通状況に注意し、低速で走行しながら行ってください。

JAU22270

ブレーキランプスイッチ

ブレーキがきき始める直前にブレーキランプが点灯するか点検します。
リヤブレーキランプスイッチの調整は、スイッチを指で押さえ、アジャスターを回して行います。



1. リヤブレーキランプスイッチ
2. アジャスター

JCA12080

⚠注　意

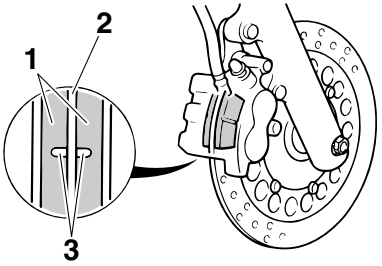
リヤブレーキランプスイッチを調整するときは、スイッチ本体を回さないでください。スイッチ本体を回すと、リード線を傷付けます。

フロントブレーキをかけたときもブレーキランプが点灯するか点検します。異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JAU29580

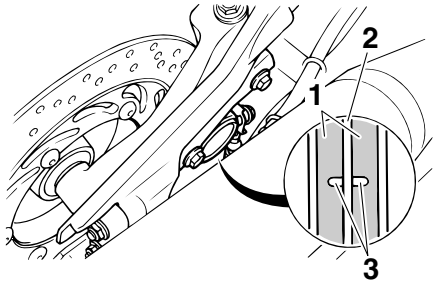
ブレーキパッドの点検

ブレーキパッドのインジケーター溝の深さで摩耗の状態を点検します。
インジケーター溝がなくなったら、ヤマハ販売店でブレーキパッドを交換してください。
前輪ブレーキ



1. ブレーキパッド
2. ブレーキディスク
3. インジケーター溝

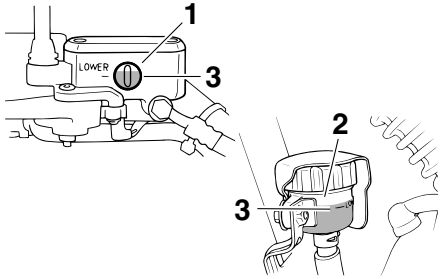
後輪ブレーキ



1. ブレーキパッド
2. ブレーキディスク
3. インジケーター溝

JAU30000

ブレーキ液量の点検



1. フロントブレーキマスターシリンダー
2. リザーバータンク
3. ロアレベル

マスターシリンダーキャップ（リザーバータンクキャップ）上面を水平にして、ブレーキリザーバータンク内の液量がロアレベル以上にあるかを点検します。
（ブレーキ液の補給は、6-11 ページ参照）

JWA12150

⚠警　告

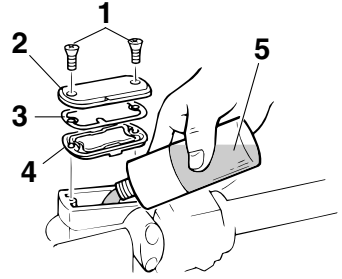
ブレーキ液の減りが著しいときは、ブレーキ系統の液漏れが考えられます。販売店で点検・整備を受けてください。

JAU31221

ブレーキ液の補給

＜前輪ブレーキ＞

1. マスターシリンダーまわりをきれいにし、異物がタンク内に入らないようにします。
2. スクリューを外し、キャップ、キャッププレート、ダイヤフラムを取り外します。
3. ロアレベル以上になるようにブレーキ液を補給します。



1. スクリュー
2. キャップ
3. キャッププレート
4. ダイヤフラム
5. ブレーキ液

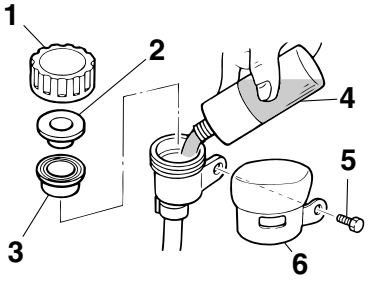
4. ダイヤフラムのかみ込みに注意して、スクリューでキャップを取り付けます。

＜後輪ブレーキ＞

1. リザーバータンクまわりをきれいにし、

6

異物がタンク内に入らないようにします。
2. ボルトを外し、ホルダー、キャップ、ダイヤフラムブッシュ、ダイヤフラムを取り外します。
3. ロアレベル以上になるようにブレーキ液を補給します。



1. キャップ
2. ダイヤフラムブッシュ
3. ダイヤフラム
4. ブレーキ液
5. ボルト
6. ホルダー

4. ダイヤフラムのかみ込みに注意してキャップを取り付け、ホルダーで固定します。

指定ブレーキ液：
ヤマハ純正ブレーキフルード
ＢＦ－４（ＤＯＴ－４）

JWA12070

⚠警　告

- **ブレーキ液は、銘柄や性能が異なるものを混入しないでください。銘柄や性能が異なるブレーキ液を混入すると、ブレーキのきき具合やブレーキ系統の部品に悪影響を与えるおそれがあります。**
- **ブレーキ液を補給するときは、リザーバータンク内にゴミや水が混入しないようにしてください。**
- **液面はブレーキパッドの摩耗と共に下がってきます。液が早く減少するようでしたら、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。**
- **ブレーキ液は安全のために１年毎の交換をおすすめします。**

JCA12330

⚠注　意

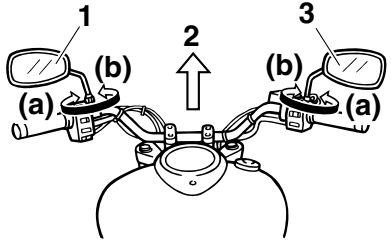
- **ブレーキ液の補給は、入れすぎに注意してください。入れすぎると、ダイヤフラムなどを取り付けたときに、あふれます。**
- **ブレーキ液が塗装面やプラスチック、ゴム類に付着すると部品が腐食することがあります。付着したら、すぐにふき取ってください。**

JAU28601

バックミラー

バックミラーの取り付けおよび取り外しかた

● 右バックミラーは左ネジです。
反時計回り（a）に回すと締まります。
時計回り（b）に回すとゆるみます。
● 左バックミラーは右ネジです。
時計回り（a）に回すと締まります。
反時計回り（b）に回すとゆるみます。



1. 左バックミラー
2. 進行方向
3. 右バックミラー

JAU28620

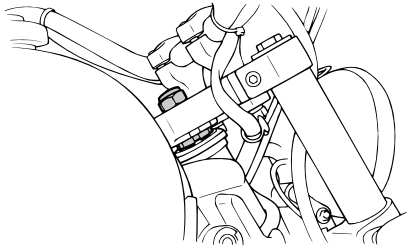
車体各部の給油脂状態の点検

車体各部の給油脂状態が充分であるかを点検します。
異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JAU28650

アンダーブラケットの取り付け状態の点検（ステアリングステム）

アンダーブラケットの締付ボルトまたは締付ナットに、ゆるみがないかを工具で点検します。



締付ボルトまたは締付ナットにゆるみがあるときは、ヤマハ販売店で規定トルクでの締め付けを依頼してください。

JAU28761

バッテリー

バッテリーの点検

この車のバッテリーは密閉式です。
バッテリー液の補充、点検は不要です。
バッテリーに異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。
バッテリーターミナル部に汚れや腐食があるときは、バッテリーを取り外して清掃します。

JWA11810

⚠警 告

バッテリーは引火性ガス（水素ガス）を発生しますので、取り扱いを誤ると爆発し、ケガをすることがあります。次の点を必ず守ってください。

- **火気厳禁です。ショートやスパークさせたり、タバコなどの火気を近づけないでください。爆発のおそれがあります。**
- **補充電は風通しのよいところで行ってください。**
- **ガソリン、油、有機溶剤などを付着させないでください。電そう割れの原因となることがあります。**
- **落下などの強い衝撃を加えないでください。**
- **バッテリー液は希硫酸です。皮膚、目、衣服などに付着すると、重大な傷害を受けることがあります。**
- **子供の手の届くところに置かないでください。**

応急手当

- **万一、バッテリー液が皮膚、衣服などについたときはすぐに多量の水で洗い流してください。**
- **目に入ったときは、すぐに多量の水で洗い流し、医師の治療を受けてください。**

JCA12141

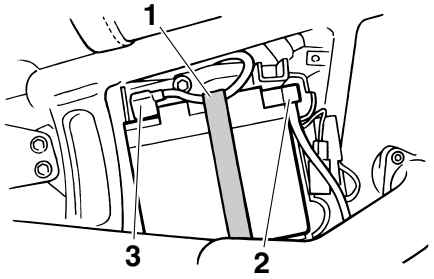
⚠注 意

- **このバッテリーは密閉式の 12V です。**
- **このバッテリーは液入り充電済です。液量点検および補水は必要ありません。**
- **補充電には、密閉式バッテリー専用充電器を使用してください。くわしくはヤマハ販売店にご相談ください。**
- **長期間ご使用にならないときは、3か月ごとに補充電してください。**
- **バッテリーを交換するときは、必ず同型式のバッテリーを使用してください。**

JAU28910

バッテリーの取り外し

1. カバーB を取り外します。（カバーの取り外しは 6-2 ページ参照）
2. バッテリーバンドを外します。
3. －（マイナス）側リード線を外し、次に＋（プラス）側リード線を外します。
4. バッテリーを取り外します。



1. バッテリーバンド
2. －リード線
3. ＋リード線

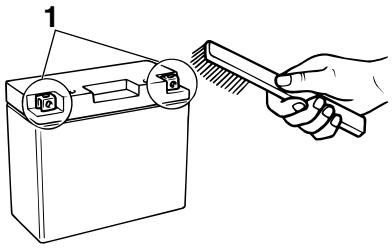
バッテリーの取り付け

取り付けは、取り外しと逆の手順で行います。

JAU29410

ターミナル部の清掃

バッテリーターミナル部に汚れや腐食があるときは、やわらかいブラシなどで清掃します。また、白い粉がついているときは、ぬるま湯を注いでよくふき取ります。

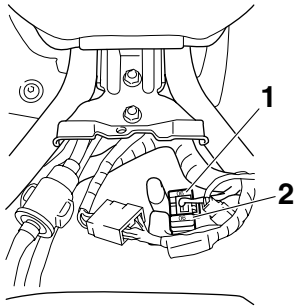


1. ターミナル

JAU34890

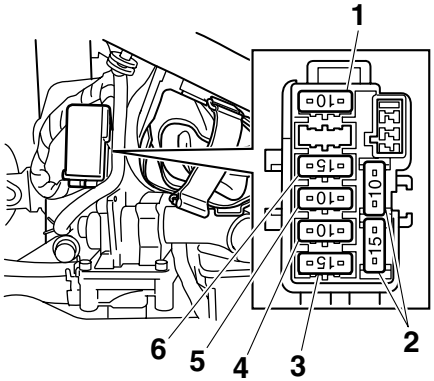
ヒューズ交換

メインヒューズボックスはタンデムシート、ライダーズシート、イグナイターパネルを外したところにあります。
（タンデムシート、ライダーズシートの取り外し方は 3-10 ページ参照、イグナイターパネルの取り外しかたは 3-12 ページ参照）



1. スペアメインヒューズ
2. メインヒューズ

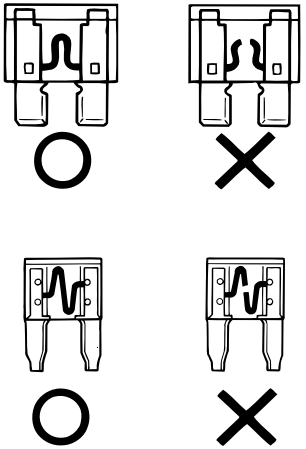
系統別ヒューズボックスはカバー A を外したところにあります。（6-2 ページ参照）



1. バックアップヒューズ
2. スペアヒューズ
3. ヘッドライトヒューズ
4. シグナルヒューズ
5. イグニッションヒューズ
6. キャブヒーターヒューズ

ヒューズが切れた場合、以下のように交換します。

1. メインスイッチを OFF にします。
2. 切れたヒューズを外し、規定アンペア数の新しいヒューズを取り付けます。



メイン:
30.0 A
バックアップ:
10.0 A
イグニッション:
10.0 A
ヘッドライト:
15.0 A
キャブヒータ:
15.0 A
シグナル:
10.0 A

JCA12860

⚠注 意

- **交換するヒューズは、規格外のものを使用しないでください。**
- **指定容量を超えるヒューズを使用すると、配線の過熱や焼損の原因になります。**
- **電装品類（ライト、計器など）を取り付けるときは、車種ごとに決められている「ヤマハ純正部品」を使用してください。それ以外のものを使用すると、ヒューズが切れたり、バッテリーあがりを起こすことがあります。**
- **洗車時ヒューズボックスのまわりに水を強く吹き付けないでください。漏電や短絡（ショート）の原因になります。**

3. メインスイッチを ON にし、装置が正しく作動することを点検します。
4. ヒューズを交換してもすぐに切れるときは、ヤマハ販売店で電気系統の点検を受けてください。

JAU29440

灯火装置および方向指示灯の点検

1. メインスイッチを ON にします。
2. テールランプ、ブレーキランプなどの灯火装置や方向指示灯の点灯・点滅具合が良好かを点検します。
3. エンジンを始動し、ヘッドライトが良好かを点検します。
4. レンズなどに汚れや損傷がないかを点検します。

点灯しないときはヒューズを点検（6-15 ページを参照）し、異常がないときは電球を交換（「製品仕様」のページを参照）してください。

JCA12060

⚠注　意

電球は、正規の規格と同じものと交換してください。これ以外のものを使用すると、球切れ、作動不良などの原因となります。

JAU29570

運行において異常が認められた箇所の点検

運行中に異常を認めた箇所について、運行に支障がないかを点検します。

お車の手入れ

JAU27780

いつまでも車を長持ちさせるために、お手入れをしてください。
すみずみまで掃除すれば、普段気付かない異常箇所や摩耗が発見でき、故障の予防にもなります。

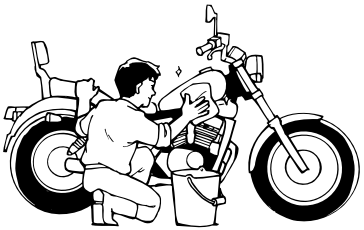
7

JAU27840

洗 車

雨天走行後など、車が汚れたときは早めに洗車してください。車をサビやキズから守ります。

- 中性洗剤を使用して充分に水洗いします。
- 柔らかい布で、車に付着した水分をよくふきとります。
- スチーム洗車や水道ホースなどで、車に直接圧力をかける洗車をしないでください。キズの原因になります。
- 洗車後、必要に応じて各部にグリースなどを注油してください。



JWA11930

⚠警 告

- **洗車はエンジンが冷えているときにしてください。**
- **洗車後、ブレーキの効きが悪くなることがあります。効きが悪いときは、前後の車に充分注意しながら低速で走行し、効きが回復するまで数回ブレーキを軽く作動させて、ブレーキの湿りをかわかしてください。**
- **ブレーキディスクやパッドにワックスやグリースなどの油脂類をつけないでください。ブレーキが効かなくなり、事故の原因になることがあります。**

JCA12210

⚠注 意

- **エアクリーナーや電装品などに水が入らないように注意してください。故障の原因になります。**
- **マフラー内部に水がたまると、始動不良やサビの原因になることがあります。洗車時はビニール袋をかけるなどして、内部に水が入らないようにしてください。**
- **コンパウンドの入ったワックスは、プラスチック部分を傷つけますので使用しないでください。**

要 点

書類入れ付近に水を強くかけないでください。内部に水が入り、書類が濡れることがあります。

JAU28062

保管のしかた

車はできるだけ敷地内に保管し、屋外に駐車するときはボディーカバーをかけてください。

なお、ボディーカバーはマフラーが冷えてからかけてください。

JCA12432

⚠注　意

長期間お乗りにならないときは、以下のことを守ってください。

- **保管する前にワックスがけをしてください。サビを防ぐ効果があります。**
- **キャブレター内のガソリンをすべて抜き取ってください。内部のつまりなどを防ぎます。**
- **バッテリーを取り外し、充電器で満充電にした後、湿気のない涼しい場所に保管してください。また、バッテリーの劣化を抑えるため、3か月ごとに補充電を行ってください。**
- **長期保管後の走行前には、バッテリーの充電、および各部の点検をしてください。**

※補充電およびガソリンの抜き取りは、ヤマハ販売店にご相談ください。

JAU28080

アフターケア用品について

大切な車の寿命は、使用するオイルの品質により大きく左右されます。ヤマハの車には、ヤマハ純正用品をご使用ください。

JAU28110

4サイクルオイルエフェロプレミアム

高回転・高負荷下でも油膜保持性能が高く、高性能エンジン搭載の中・大型車に最適な高品質オイルです。

4サイクルオイルエフェロスポーツ

オイル消費を抑え、高速走行、ロングツーリングなどでも優れた性能を発揮するマルチタイプのオイルです。

4サイクルオイルエフェロベーシック

一般走行、業務用に最適なコストパフォーマンスオイルです。



1. エフェロプレミアム
2. エフェロスポーツ
3. エフェロベーシック

JAU28200

ブレーキフルード BF-4

高沸点、防錆性、安定性、ゴム劣化防止性に優れたブレーキフルードです。



JAU28290

ドライブシャフトオイル

潤滑条件が過酷なドライブシャフトギヤを保護し、円滑な作動を長期間維持するオイルです。



JAU28360

ユニコンカークリーム（ワックス）

塗装面の汚れを簡単にとり、手間をかけずに美しい光沢が得られます。また、どんな塗装にも使用できる伸びのよいワックスです。

ME-180（防錆潤滑剤）

防錆、潤滑、防湿、浸透力に優れた金属保護液です。



1. ユニコンカークリーム
2. ME–180（防錆潤滑剤）

JAU2633E

寸法：
全長：
2460 mm
全幅：
950 mm
全高：
1095 mm
シート高：
710 mm
軸間距離：
1645 mm
最低地上高：
135 mm

重量：
車両重量：
291 kg
分布荷重 （前）：
135 kg
分布荷重 （後）：
156 kg
車両総重量：
401 kg
分布荷重 （前）：
154 kg
分布荷重 （後）：
247 kg
乗車定員：
2 名

性能：
定地燃費 （国土交通省届出値）：
32.0 km/L/60 km/h
最小回転半径：
3400 mm
最高出力：
45 kW@5750 r/min
(60 PS@5750 r/min)
最大トルク：
82 Nm@2500 r/min
(8.3 kgf-m@2500 r/min)

エンジン：
原動機種類：
4ストローク空冷 ＳＯＨＣ
気筒数・配列：
V 型 2 気筒
総排気量：
1063.0 cm^3
内径 x 行程：
95.0 × 75.0 mm
圧縮比：
8.30 :1
エアフィルターエレメント：
乾式不織布
クラッチ形式：
湿式多板
ミッション・チェンジ方式：
常時かみ合式 5 速
始動方式：
セル式

車体：
フレーム形式：
ダブルクレードル
キャスター：
33.00 °
トレール：
132.0 mm

ステアリングシステム：
ハンドル切れ角 （左）：
35.0 °
ハンドル切れ角 （右）：
35.0 °

燃料：
フューエルタンク容量：
17.0 L
予備容量：
4.5 L

フロントブレーキ：
ブレーキ形式：
油圧式ダブルディスクブレーキ

製品仕様

リヤブレーキ:
ブレーキ形式:
油圧式シングルディスクブレーキ
懸架方式:
種類 （前）:
テレスコピック
種類 （後）:
スイングアーム（リンク式）
緩衝方式:
ショックアブソーバータイプ （前）:
コイルスプリング / オイルダンパ
ショックアブソーバータイプ （後）:
コイルスプリング / ガスオイルダンパ
フロントタイヤ:
種類:
チューブ有り
サイズ:
130/90-16M/C 67S
メーカー / 銘柄:
DUNLOP/D404F
リヤタイヤ:
種類:
チューブ有り
サイズ:
170/80-15M/C 77S
メーカー / 銘柄:
DUNLOP/D404G
トランスミッション:
1次減速比:
78/47 (1.659)
1速:
40/17 (2.352)
2速:
40/24 (1.666)
3速:
36/28 (1.285)
4速:
32/31 (1.032)
5速:
29/34 (0.852)
2次減速比:
44/47 × 19/18 × 32/11 (2.874)
エレクトリカル:
点火方式:
トランジスタ（デジタル進角）
ヘッドライト:
ヘッドライト球:
ハロゲンバルブ
バルブワット数 x 個数:
ヘッドライト:
12 V, 60 W/55.0 W × 1
テール / ブレーキランプ:
12 V, 5.0 W/21.0 W × 1
方向指示灯 （前）:
12 V, 21.0 W × 2
方向指示灯 （後）:
12 V, 21.0 W × 2
メーター灯:
14 V, 1.4 W × 2
パイロットランプワット数 / 個数:
ニュートラルランプ:
12 V, 1.7 W × 1
方向指示器表示灯:
12 V, 1.7 W × 1
オイル残量警告灯:
12 V, 1.7 W × 1
ヘッドライト上向き表示灯:
12 V, 1.7 W × 1
エンジン警告灯:
12 V, 1.7 W × 1
イモビライザーシステム表示灯:
LED

エンジンオイル：
指定オイル：
ヤマハ 4 サイクルオイルエフェロ プレミアム、スポーツ、ベーシック
エンジンオイル容量：
オイルフィルターエレメント無交換時:
3.00 L
オイルフィルターエレメント交換時：
3.10 L
ドライブシャフトオイル：
オイル量：
0.19 L
ブレーキレバーとブレーキペダル：
フロントブレーキレバー遊び：
5.0–8.0 mm
ケーブルとレバーの遊び：
スロットルケーブル遊び：
4.0–6.0 mm
クラッチレバー先端部遊び：
5.0–10.0 mm
フロントディスクブレーキ：
パッド厚さ （内側）：
6.2 mm
使用限度：
0.8 mm
パッド厚さ （外側）：
6.2 mm
使用限度：
0.8 mm
指定ブレーキフルード：
ＤＯＴ　4
リヤディスクブレーキ：
パッド厚さ （内側）：
5.5 mm
使用限度：
0.5 mm
パッド厚さ （外側）：
5.5 mm
使用限度：
0.5 mm
指定ブレーキフルード：
ＤＯＴ 4
ホイールトラベル：
ホイールトラベル （前）：
140.0 mm
ホイールトラベル （後）：
113.0 mm
タイヤ空気圧 （冷間時）：
前輪 （1 名乗車）：
225 kPa (2.25 kgf/cm^2)
後輪 （1 名乗車）：
225 kPa (2.25 kgf/cm^2)
前輪 （2 名乗車）：
225 kPa (2.25 kgf/cm^2)
後輪 （2 名乗車）：
250 kPa (2.50 kgf/cm^2)
高速走行：
前輪 （1 名乗車）：
225 kPa (2.25 kgf/cm^2)
後輪 （1 名乗車）：
250 kPa (2.50 kgf/cm^2)
前輪 （2 名乗車）：
225 kPa (2.25 kgf/cm^2)
後輪 （2 名乗車）：
250 kPa (2.50 kgf/cm^2)
バッテリー：
バッテリー型式：
GT14B-4
バッテリー容量：
12 V, 12.0 Ah
点火タイミング：
点火時期 （Ｂ．Ｔ．Ｄ．Ｃ．）：
10.0 °/1000 r/min
スパークプラグ：
メーカー / 型式：
NGK/BPR7ES

メーカー / 型式:
DENSO/W22EPR-U
プラグギャップ:
0.7–0.8 mm

ヒューズ容量:

メイン:
30.0 A
ヘッドライト:
15.0 A
シグナル:
10.0 A
イグニッション:
10.0 A
バックアップ:
10.0 A
キャブヒータ:
15.0 A

JAU36640

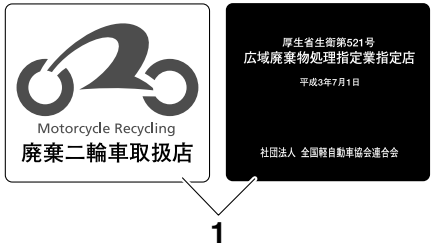
二輪車を廃棄する場合は？

廃棄を希望する場合は？

廃棄を希望される二輪車がある場合は、お近くの「廃棄二輪車取扱店」にご相談ください。

廃棄二輪車取扱店とは？

（社）全国軽自動車協会連合会の登録販売店で、広域廃棄物処理指定業指定店として登録されているお店が「廃棄二輪車取扱店」です。廃棄二輪車を適正処理するための窓口として、店頭に「廃棄二輪車取扱店の証」が表示されています。



1. 廃棄二輪車取扱店の証

リサイクル費用とは？

廃棄二輪車を適正に処理し、再資源化する費用です。二輪車リサイクルマークが車体に貼付されている二輪車は、リサイクル費用をメーカー希望小売価格に含んでいますので、リサイクル料金はいただきません。

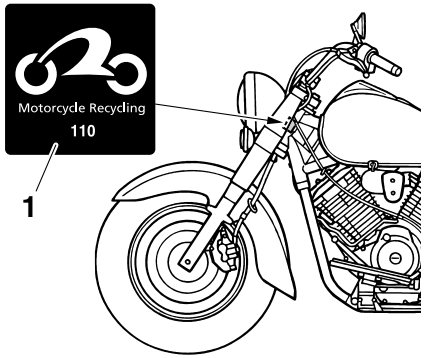
ただし、リサイクル費用には運搬および収集料金は含まれていませんので、廃棄二輪車取扱店または指定引取場所までの運搬・収集料金は、お客様の負担になります。運搬・収集料金につきましては、廃棄二輪車取扱店にご相談ください。

二輪車リサイクルマークの取り扱い

この車には、下図の位置に二輪車リサイクルマークが貼付されています。

廃棄時に二輪車リサイクルマークの有無を確認しますので、絶対に剥がさないでください。二輪車リサイクルマークは、剥がれや破損による再発行、部品販売の取り扱いはございません。

剥がれや破損でリサイクルマーク付き対象車かどうかが不明の場合は、下記へお問い合わせください。



1. 二輪車リサイクルマーク

廃棄二輪車に関するお問い合わせについて

廃棄二輪車に関するお問い合わせは、最寄りの「廃棄二輪車取扱店」または下記へお問い合わせください。

（財）自動車リサイクル促進センターホームページ

http://www.jarc.or.jp/

二輪車リサイクルコールセンター

電話番号　０３－３５９８－８０７５

受付時間　９時３０分～１７時００分（土・日・祝日・年末年始等を除く）

ユーザー情報

JAU28370

サービスマニュアル(別売)の紹介

サービスマニュアルには、点検・調整や分解・組立の方法を写真やイラストを用いて説明してあります。車の概要や構造を理解するためにご利用ください。
サービスマニュアルのご注文は、ヤマハ販売店で受けております。部品番号をお知らせください。

XVS1100A　サービスマニュアル
部品番号：
基本版：
QQS-CLT-000-5EL
追補版：
QQS-CLT-010-5KS
QQS-CLT-011-5KS

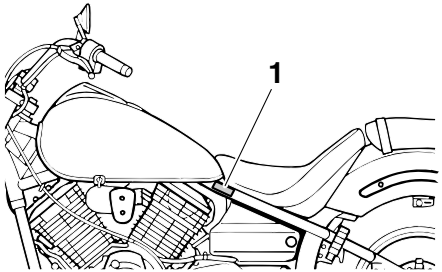
※追補版は、マイナーチェンジなどで機構に変更があったときに、その変更部分のみを説明したサービスマニュアルです。基本版とあわせてご使用ください。

JAU28450

車両情報

モデルラベル

パーツオーダー、アフターサービスなどに使用します。
モデルラベルは、あなたの車を正確に特定するための情報をコード化したものです。ご相談の際には、車名およびモデルラベルの内容を正確にご連絡ください。
モデルラベルは、フューエルタンクとシートの間の左フレームに貼り付けてあります。

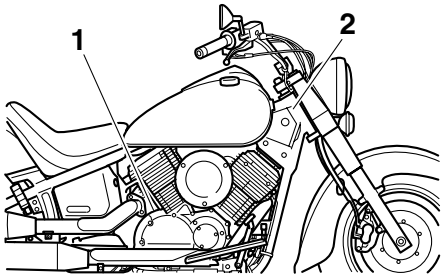


1. モデルラベル

あなたの車の情報を記入し、控えにしてください。
車名は
XVS1100A ドラッグスタークラシック
モデルラベル
製品仕様を示しています。
○
カラーリングを示しています。
●

車台番号、原動機番号

ナンバー登録、自動車保険の加入などに使用します。
詳しくは、お買い求めの販売店にご相談ください。



1. 原動機番号
2. 車台番号

9

あなたの街のあなたのお店

最寄りのお客様相談窓口については、メンテナンスノートの巻末をご覧ください。

QQS-CLT-103-5YS

再生紙を使用しています

YAMAHA
ヤマハ発動機株式会社
〒438-8501 静岡県磐田市新貝2500

PRINTED IN JAPAN
2005.8-0.1 × 1
(J)